

I. 上部消化管悪性疾患

1) 食道疾患

食道がんが主な対象疾患であり、手術、化学療法、放射線療法を行っています。手術においては術後の負担が少なく（低侵襲）、精密なリンパ節郭清を目指して、2008年より胸腔鏡下手術を積極的に取り入れています。また2018年からはロボット支援下食道切除術も導入しており、さらに精密で合併症の少ない手術を目標としています。近年は県内からのご紹介も増えて食道がん手術症例は年間20例～30例行っております。様々な病態や病期に応じた治療を施行しており、例えば進行癌には化学療法または化学放射線療法に外科治療を組み合わせることにより予後の延長を目指しています。治療法の決定に関しては、消化管外科の医師だけでなく、消化器内科、腫瘍内科、耳鼻咽喉頭頸部外科、放射線治療科と合同で、月1回食道カンファレンスを開催し、個々の症例に応じた治療を診療科横断的に検討しています。また術後の嚥下機能や栄養管理について、看護師、薬剤部、理学療法部、栄養部などと密に連携して治療にあたっています。



2) 食道がんの症例数年次推移

